

2015年10月9日 全4頁

【統計情報】暮らしが見えるグラフ24 (2015年10月号)

データバンク課

[目次]

- I. 仕事のこと
 1. 一般労働者の給与総額と所定内給与
 2. パートタイムの給与総額と所定内給与
 3. 労働時間と残業時間
 4. 完全失業率と有効求人倍率
 5. 非正規の職員・従業員の割合
 6. 就業者総数における高齢者の割合
 7. 就業者の女性比率
 8. 企業規模別年次有給休暇取得率
- II. 家庭のこと
 1. 実質消費支出
 2. 消費者物価指数
 3. 光熱費総額と電気代
 4. 教育関係費・医療費
 5. 首都圏マンション販売
 6. 新車販売台数
 7. 金融資産保有状況
 8. 世帯主の年齢階級別負債現在高の推移
- III. 社会のこと
 1. 暮らし向きDIと現在の景況感DI
 2. 第一子出産年齢別百分率と出生数
 3. 保育所待機児童数
 4. 介護・看護離職者数
 5. 在留外国人数
 6. 相対的貧困率
 7. 空き家数と空き家率
 8. 情報通信機器の世帯普及率

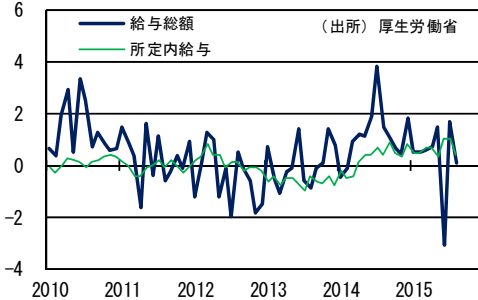
当資料は10月8日までの公表データで作成しています。

(お知らせ) 次号は1月8日(金)発行予定です。

* 大和総研のウェブサイトでは、当レポートの関連データ集も公開しております。ご活用頂ければ幸いです。
<http://www.dir.co.jp/InfoManage/datarasc-s.html>

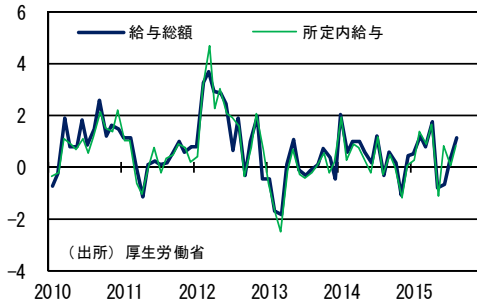
I. 仕事のこと

一般労働者の給与総額と所定内給与
～所定内給与は17ヵ月連続前年比増～



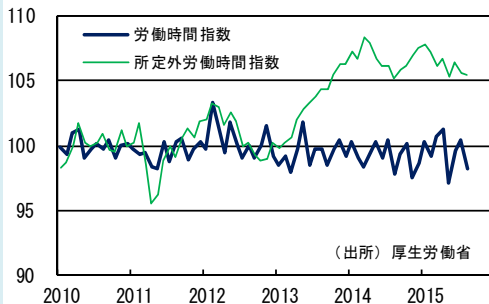
(注) 事業所規模30人以上、前年比

パートタイムの給与総額と所定内給与
～所定内給与は3ヵ月連続で前年比増～



(注) 事業所規模30人以上、前年比

労働時間と残業時間
(2010年=100)～残業時間の穏やかな減少続く～

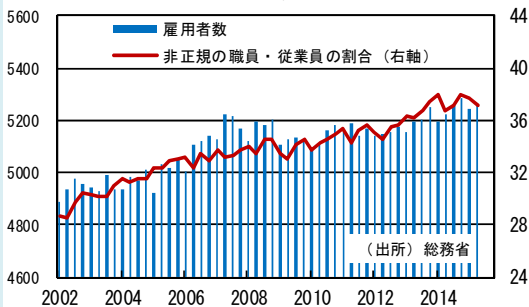


(注) 事業所規模30人以上、季調済

完全失業率と有効求人倍率
～8月の有効求人倍率は23年7ヵ月ぶりの高水準～

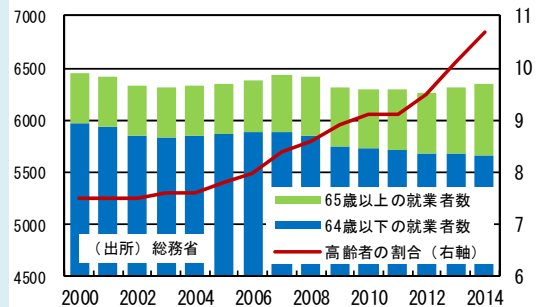


非正規の職員・従業員の割合
(万人)～4～6月期の非正規割合は37.1%～

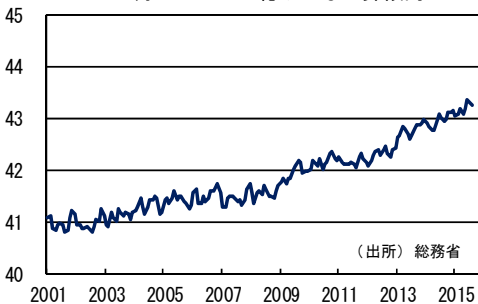


(注) 雇用者数、割合ともに役員を除く

就業者総数における高齢者の割合
(万人)～2014年は10.7%で高齢者の割合上昇続く～

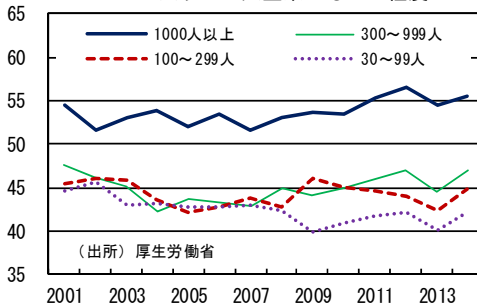


就業者の女性比率
～8月は43.3%で穏やかな上昇傾向～



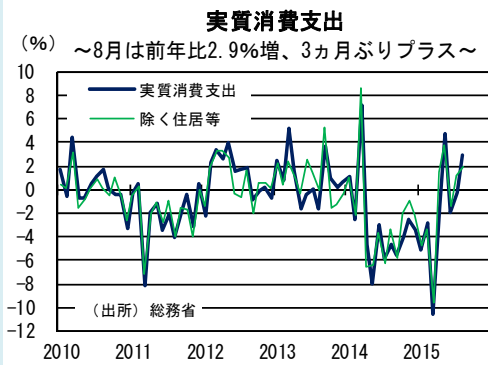
(注) 季調済

企業規模別年次有給休暇取得率
～1000人以上の大企業でも55%程度～

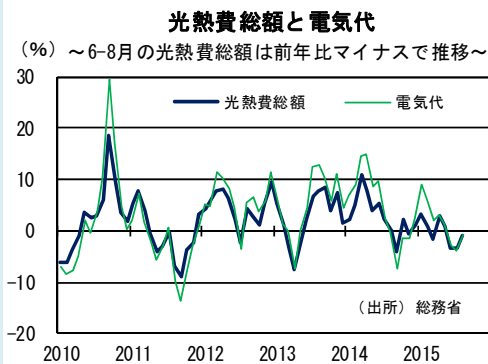
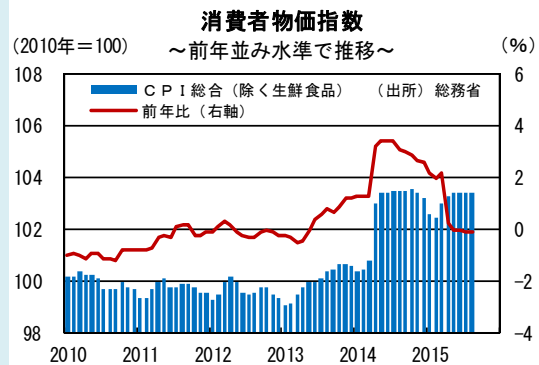


(注) 前年1年間の取得率

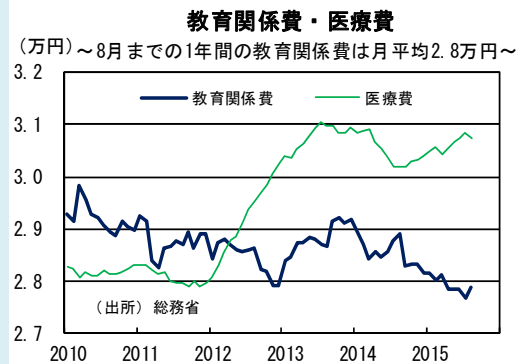
II. 家庭のこと



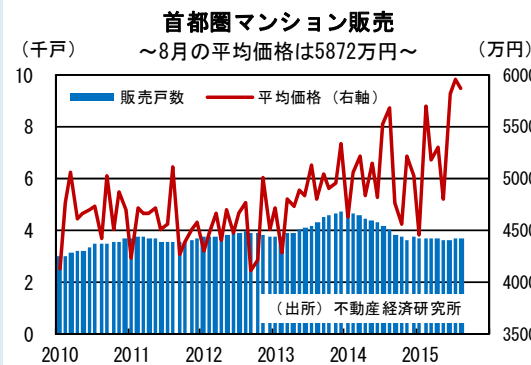
(注) 前年比



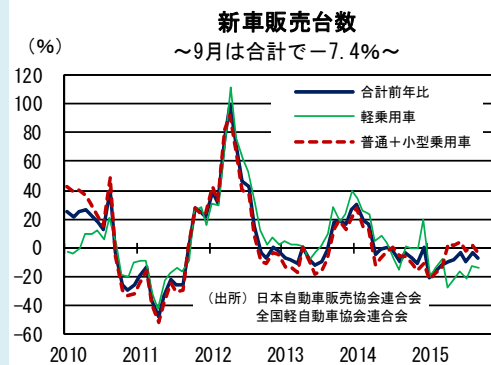
(注) 二人以上世帯一世帯当たり、前年比



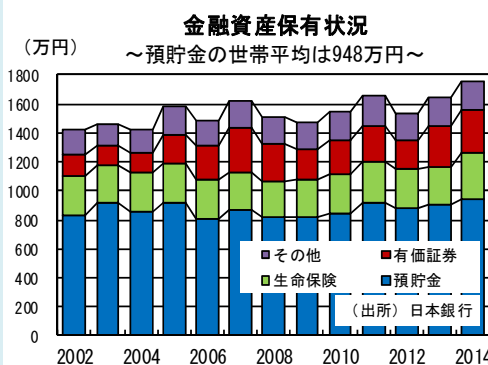
(注) 勤労者一世帯当たり(農林漁家世帯を除く) 月額、医療費は健康保険料を含む、12ヵ月移動平均



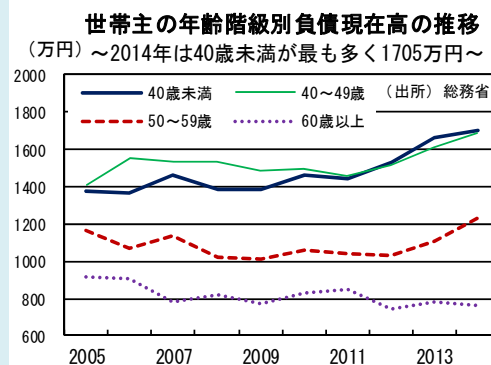
(注) 販売戸数は12ヵ月平均、新規物件



(注) 前年比、乗用車ベース



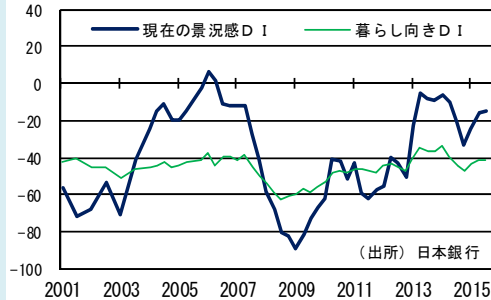
(注) 金融資産保有世帯で二人以上の世帯



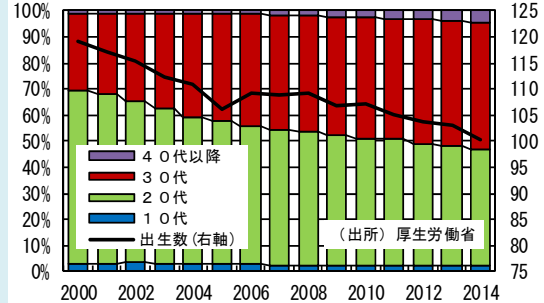
(注) 二人以上世帯で負債保有世帯

Ⅲ. 社会のこと

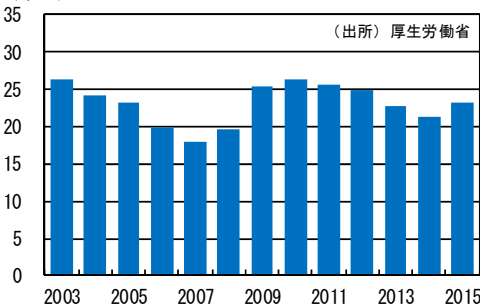
暮らし向きDIと現在の景況感DI
 (%ポイント) ~2015年3Q、両DIとも3期連続で改善~



第一子出産年齢別百分率と出生数
 ~40代以降も4%超に、出生数100万人割れ寸前~ (万人)

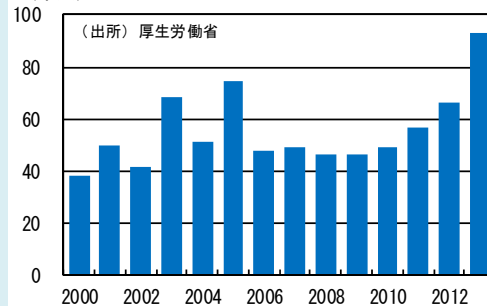


保育所待機児童数
 (千人) ~2015年4月は5年ぶりに増加~



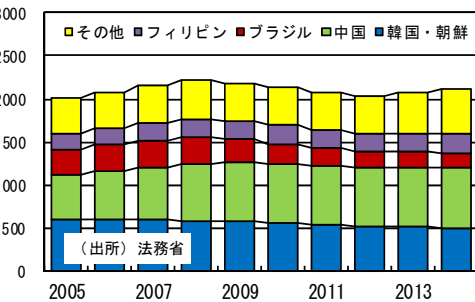
(注) 各年4月現在

介護・看護離職者数
 (千人) ~2013年は9.3万人~



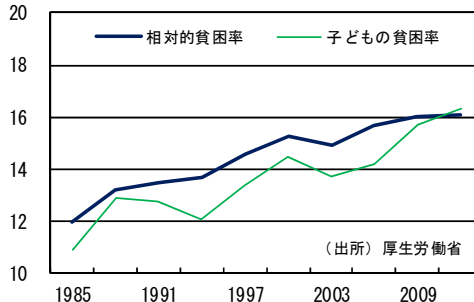
(注) 介護・看護を理由とした離職者数

在留外国人数
 (千人) ~中国、フィリピン、その他が増加~



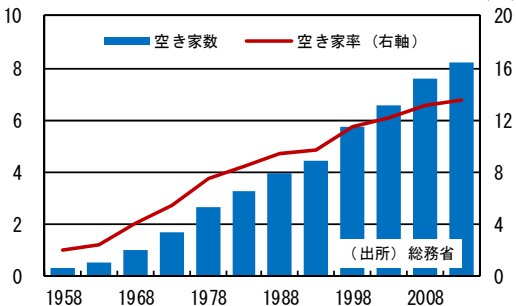
(注) 2011年以前は登録外国人数
 中国には台湾・香港・マカオを含む

相対的貧困率
 (%) ~全体で16.1%、子どもで16.3%~



(注) 相対的貧困率は等価可処分所得の中央値の半分の額に満たない世帯員の割合。子どもは17歳以下の者

空き家数と空き家率
 (百万戸) ~2013年の空き家は820万戸~



情報通信機器の世帯普及率

(%) ~固定電話の緩やかな減少と、スマートフォンの伸びが鈍化~

